

# 洛女會報

京都市左京区吉田本町  
京都大学工学部  
電気工学科教室内  
洛 友 会

## 緑 蔭 随 想

京大名誉教授・工博  
大正6年卒  
松 田 長三郎

△本誌第91号(昭和50年4月1日発行)に、横河電機の常務取締役有馬敏彦さんが、植物栽培の「オートメーション」について、大変興味ある一文を記載しておられる。

この話は、去る三月十五日、京都で開かれた同君等の卒業40周年記念同窓会の席上、紹介されたもので、例えば、ホーレンソウは、一年に11回も収穫ができるとか、一本のトマトの木が五十六年も果実がなり続け、その間、毎日収穫ができるというような誠に結構なお話であったので、この会報にも執筆をお願いした次第であった。

△現在わが国は、内外ともに、精神的にも物質的にも、非常に重大な危機にあると云える。そのうち物質的な面について言えば、例えばエネルギー問題や食糧問題について、急に世論が高まって来ている。一昨年の石油ショック以来、世界はこの問題について真剣に取り

組むようになって来た。資源や食糧のような直接死活に係はるような問題に対して、資源保有国で、資源ナシナリズムが無制限に拡大して行けば、これらの大部分を輸入に待っている我国などは、文字通り死活の境地に追い込まれる破目に陥ることは必至である。その上、国内国外において、交通や通信などの大規模ストでも起れば大都市においては、食糧難のため、どんな不測の事態に陥らぬとも限らぬ。昭和七年富山県に端を発した所謂米騒動は、またたく間に、全国に波及したことを追想する。また終戦直後の、あの大きなストライキも、マッカーサーの司令によって中止されたが、あれが、もっと続いていたら、どんなことになっていたか。今や一千万を数える世界最大の大東京都市で、交通運輸・通信に大きな支障を来したら、果してどんなこと

になるであろうか。大地震の予想がなされ、もし今関東大震災程度地震があれば、何百万の犠牲が出るかも知れないと云はれているが、実に空恐ろしい気がする。△食糧問題について想起することは、たしか昭和25年頃であったと思うが、当時私は京大の工学研究所長を兼ねていたが、仙台の東北大学で開催された文部省の附属研究所長会議に出席するため、農学部近藤食糧科学研究所長とともに、仙台まで同車したが、車窓に展開する東北沿線の農地では、耕作されていない土地が殆んどであった。当時ソ連では、あの極寒のシベリア地方などでも生育するような、穀物類の品種改良の研究をやっていると聞いていたので、私は近藤教授に次のような話をした。我国のような緯度で、日照も多く、平均的に割合温暖で、降雨・降雪も多く(豪雨・豪雪・台風などで困ることもあるが)、地味も左程悪くない所では、もっと栽培できるのではないか。農家の労働力や収入等の関係もあって、一毛作も止むを得ないかも知れないが、一体植物の生長、例えば稲なり麦は、気象環境その他が良ければ、どれだけ収穫が得られるか。稲の生長速度はどれだけ早めることができるか。温度・湿度・イオン密度・換気・日照(電照)

等の環境は電氣的に、幾らでも自動調節できるから、農学部でそのような研究をやって下さるならば、これらのことは、私の方で引き受けしますと云った。当時私の考えでは一体、動植物の成長過程において、各段階の生長機能がどこまで促進して行けるか、動植物がどれだけ追隨して行けるか。そのプロセスを検討して行くことが必要であり興味のあることと思っていたので、それに対する適正環境の実現や各種測定を自動操縦などは、やる気さえあれば比較的簡単にできる。先づ学術的に研究することが肝要で、経済問題は二の次ぎとした。(この考えを推し進めて行けば、凡ての動物、さては人間の生長発達にも適用できる筈である。このことは或は自然に背き、天理に悖ることになり兼ねない味気ないことではあるが)。高知あたりでは、やろうと思えば米の三回収穫もできるのとことであるが、引き合はぬ。人工的に年中、米作ができることになれば、差し当り経済は度外視して、大変興味あることと思つたのである。かつて私の友人農学部故榎本教授は、米の増産の一翼を荷って、朝日新聞社の「稲作日本一」の審査委員長をやっていたが、その後の農政は豊作続きで、減反政策を採るようになったこと

をどんなに考えているであろうかと思うのである。△有馬君の記事では、同氏と共同で、島根大学農学部で、こういう研究が行われていることを知って、大変嬉しく思つた次第です。従来我が国の農業は、全く自然に依存して来たし、数年毎に繰り返えされる冷害による不作は、農家に深刻な不安感を抱かせている。これからの農業は、農地が農業工場と云われるように、全国土に機械化・プロセス方式を採り入れて行けば、この沃土で一億の人口を養って行くことは至難では無いと、素人ながらに考えている。△実際欧州の文明諸国では、緯度が甚だ高くベルリン五三度、ロンドン五一度、パリ四九度と、非常に高いが、その割合に気温は、メキシコ暖流のために緩和されているが、日照は少いから、彼等の太陽へのあこがれはわれわれの想像以上で、例えばゲートの「イタリヤ紀行」などにもよく表はれている。従つて夏季に十分太陽(殊に紫外線)に当って皮膚を小麦色にやいている。我国では夏季・正午・晴天時、12時、日の割合で、太陽からエネルギーを受けているが、これは絶大なエネルギー資源であり、しかも年間の日照時間も多し。空気は汚染されて、これによる太陽エネルギーの吸収も多く

なつて来ているが、太陽・空気・水に恵まれ、土地も比較的肥えている。飛行機上から日本国土を俯瞰すると鬱蒼とした山野であり、四面環海の恵まれた国である。しかも勤勉な（従来は）優秀な教育を受けた頭脳を持っている。折から、沖縄海洋博が、七月から開かれるが、今は経済的不況に見舞はれているが、一般の人達、殊に若い人達が、怠けず大いに頑張つて下さるならば、我国の将来は大いに明るいものと思う。

た。あつくお礼申上ます。東京の支部及び本部総会は目黒の八芳園で盛大に開かれたが、多数のご家族又若い会員の方も相当参加されて大変結構でした。高木支部長その他役員の方々に厚くお礼申上ます。本部からは大谷・田中両教授及山本事務局長等が出席され夫々御報告がありました。現在教室の卒業生総数は四、二七七名、講習所の卒業生は六〇〇名、東京支部約一、三〇〇名、我国の電気学術、技術、工業に努力されて、世

界に誇る経済大国にまで発展成長する一翼を荷つて来られたので、誠に力強い限りであるが、今後とも一層の御活躍をお願いしたい。△毎年、年度別の卒業記念同窓会にお招きを受けますが、昭和25年卒の25周年、昭和10年の40周年記念会には、何れも多数の同窓生の方々が参集されて盛会であった。お元氣なご様子を拝見し、そのご活躍ご動静を伺えることはこの上無き喜びであります。切に御自愛と御健康を祈り上げます。

題などもあったが、その人達も或いは病み、或いは故人となった人も多く、今日では誠に寂寥の感に堪えない。大正十二年には大学に進み、同じ電気工学科を択んで一層親しくなった。一年の夏休の実習に一緒に京阪電車守口車庫のお世話になり、鋳物工場で溶鉄の熱湯の重い取瓶の運搬によるめいたことも懐しい思い出である。その時大同電力の寝屋川変電所を見学し、始めて見た超高压長距離送電線に驚き、そこで大きな音を立てて廻転していた同期進相機に就いて案内の人に説明して頂いたが、二人とも十分に理解出来なかった。二年に進級して同じ実験の組であった。

もそのことを話し合つて懐しがったことがある。大正十五年に学校を卒業してからは、互に遠く離れて、年賀状のやりとり以外に通信することも少なかった。世界動力会議が我が国で開催されたときに、山本君の勤務していた東信電力阿賀野川水系の豊実・鹿瀬の二大発電所が見学個所に扱はれた。この前後に私もそこを訪ね、久しぶりに山本君と出会つたが、その時どのような話をし、またどのようにお世話になつたのか記憶がはつきりしない。その後、昭和肥料（現在の昭和電工）の高橋保氏に従つて昭和人情に移られ、私もその頃東京勤務となつて、今までより会う機会もふえて来た。これから数々の業績は石川辰雄氏が記された「山本三郎君のみ霊に捧ぐ」に詳しい。

## 六十年の友

日立電線顧問  
大正十五年卒  
小宮 義 和

△最近、洛友会中部支部、東京支部及び本部の各総会に出席させて頂いた。中部支部総会は、本田支部長の風光明眉緑滴たる五ヶ所湾内、七日島（面積十坪、周囲四キロと聞いた）で開かれたが、多数の会員、ご家族とともに、温かいおもてなしを受けた。本部からは上ノ園教授・山本事務局長が出席された。会後お得意の陶器のこま犬の実物及びスライドによる興味あるお話しを拝聴したが、その一つのエピソード——こま犬の半像を八丈島に捜しあてられたことは、実に奇蹟に近く、何事も最後まであきらめないことなど、自らの御経験談を伺つて大いに感銘した次第である。翌日は、とりどりに、ゴルフや見学など。私は古田さんのご案内を受けて、伊勢神宮へお詣りできたことは幸せであつ

た。あつくお礼申上ます。東京の支部及び本部総会は目黒の八芳園で盛大に開かれたが、多数のご家族又若い会員の方も相当参加されて大変結構でした。高木支部長その他役員の方々に厚くお礼申上ます。本部からは大谷・田中両教授及山本事務局長等が出席され夫々御報告がありました。現在教室の卒業生総数は四、二七七名、講習所の卒業生は六〇〇名、東京支部約一、三〇〇名、我国の電気学術、技術、工業に努力されて、世

界に誇る経済大国にまで発展成長する一翼を荷つて来られたので、誠に力強い限りであるが、今後とも一層の御活躍をお願いしたい。△毎年、年度別の卒業記念同窓会にお招きを受けますが、昭和25年卒の25周年、昭和10年の40周年記念会には、何れも多数の同窓生の方々が参集されて盛会であった。お元氣なご様子を拝見し、そのご活躍ご動静を伺えることはこの上無き喜びであります。切に御自愛と御健康を祈り上げます。

題などもあったが、その人達も或いは病み、或いは故人となった人も多く、今日では誠に寂寥の感に堪えない。大正十二年には大学に進み、同じ電気工学科を択んで一層親しくなった。一年の夏休の実習に一緒に京阪電車守口車庫のお世話になり、鋳物工場で溶鉄の熱湯の重い取瓶の運搬によるめいたことも懐しい思い出である。その時大同電力の寝屋川変電所を見学し、始めて見た超高压長距離送電線に驚き、そこで大きな音を立てて廻転していた同期進相機に就いて案内の人に説明して頂いたが、二人とも十分に理解出来なかった。二年に進級して同じ実験の組であった。

もそのことを話し合つて懐しがったことがある。大正十五年に学校を卒業してからは、互に遠く離れて、年賀状のやりとり以外に通信することも少なかった。世界動力会議が我が国で開催されたときに、山本君の勤務していた東信電力阿賀野川水系の豊実・鹿瀬の二大発電所が見学個所に扱はれた。この前後に私もそこを訪ね、久しぶりに山本君と出会つたが、その時どのような話をし、またどのようにお世話になつたのか記憶がはつきりしない。その後、昭和肥料（現在の昭和電工）の高橋保氏に従つて昭和人情に移られ、私もその頃東京勤務となつて、今までより会う機会もふえて来た。これから数々の業績は石川辰雄氏が記された「山本三郎君のみ霊に捧ぐ」に詳しい。

た。あつくお礼申上ます。東京の支部及び本部総会は目黒の八芳園で盛大に開かれたが、多数のご家族又若い会員の方も相当参加されて大変結構でした。高木支部長その他役員の方々に厚くお礼申上ます。本部からは大谷・田中両教授及山本事務局長等が出席され夫々御報告がありました。現在教室の卒業生総数は四、二七七名、講習所の卒業生は六〇〇名、東京支部約一、三〇〇名、我国の電気学術、技術、工業に努力されて、世

界に誇る経済大国にまで発展成長する一翼を荷つて来られたので、誠に力強い限りであるが、今後とも一層の御活躍をお願いしたい。△毎年、年度別の卒業記念同窓会にお招きを受けますが、昭和25年卒の25周年、昭和10年の40周年記念会には、何れも多数の同窓生の方々が参集されて盛会であった。お元氣なご様子を拝見し、そのご活躍ご動静を伺えることはこの上無き喜びであります。切に御自愛と御健康を祈り上げます。

題などもあったが、その人達も或いは病み、或いは故人となった人も多く、今日では誠に寂寥の感に堪えない。大正十二年には大学に進み、同じ電気工学科を択んで一層親しくなった。一年の夏休の実習に一緒に京阪電車守口車庫のお世話になり、鋳物工場で溶鉄の熱湯の重い取瓶の運搬によるめいたことも懐しい思い出である。その時大同電力の寝屋川変電所を見学し、始めて見た超高压長距離送電線に驚き、そこで大きな音を立てて廻転していた同期進相機に就いて案内の人に説明して頂いたが、二人とも十分に理解出来なかった。二年に進級して同じ実験の組であった。

題などもあったが、その人達も或いは病み、或いは故人となった人も多く、今日では誠に寂寥の感に堪えない。大正十二年には大学に進み、同じ電気工学科を択んで一層親しくなった。一年の夏休の実習に一緒に京阪電車守口車庫のお世話になり、鋳物工場で溶鉄の熱湯の重い取瓶の運搬によるめいたことも懐しい思い出である。その時大同電力の寝屋川変電所を見学し、始めて見た超高压長距離送電線に驚き、そこで大きな音を立てて廻転していた同期進相機に就いて案内の人に説明して頂いたが、二人とも十分に理解出来なかった。二年に進級して同じ実験の組であった。

もそのことを話し合つて懐しがったことがある。大正十五年に学校を卒業してからは、互に遠く離れて、年賀状のやりとり以外に通信することも少なかった。世界動力会議が我が国で開催されたときに、山本君の勤務していた東信電力阿賀野川水系の豊実・鹿瀬の二大発電所が見学個所に扱はれた。この前後に私もそこを訪ね、久しぶりに山本君と出会つたが、その時どのような話をし、またどのようにお世話になつたのか記憶がはつきりしない。その後、昭和肥料（現在の昭和電工）の高橋保氏に従つて昭和人情に移られ、私もその頃東京勤務となつて、今までより会う機会もふえて来た。これから数々の業績は石川辰雄氏が記された「山本三郎君のみ霊に捧ぐ」に詳しい。

ともある。

ある時私も桜井屋を訪ねて、主人に無理に頼んで押しもらったことがある。「山本さんは私たちがヤンチャ仲間の餓鬼大将でした」という話をしていた。子供の頃に上賀茂神社の能の謡を聴きにやられて、長時間坐られたのが何より苦痛だったという山本君の話が思い出されて、幼い頃のヤンチャ振りを想像した。

神馬堂の焼餅もすっかり鄙びた風がなくなり、山本君を淋しがらせていた。

### 吾郷侃二兄のご霊前に捧ぐ

十四日会員代表  
大正十四・五年卒

石川辰雄

五十余年の心の友吾郷侃二君は五月十二日ご入院中の病院で、七十四才を一期として、眠るがごとくご昇天になりました。近年脳血栓で病状一進一退、調子のよときはご自宅で、趣味やテレビで色々自適のお暮しを楽しんでおられましたのに。

吾郷さんは学生時代から口癖を「やし、和服姿で試験場に来るなど、一風変わった国士風の人でした。卒業とともに三菱商事の機械部電機課に奉職されましたが、一徹なところがあり、早くから話題の人となっていました。一例です

中学から大学まで十一年間通った賀茂川堤に植えられた松の小さい樹を、学校の掃えりにずっとまいたいで掃えり、ズボンに松脂がくっついて叱られたが、大学を卒業する頃には、その松の樹が自分のせいより高くなっていたと山本君はよく話していた。それから五十年、今行つて見ると舗装された自動車道路に亭々と繁る松の老樹が並んでいて、これが山本君がまたいで通った松の樹かとなつかしい。

(五〇、四、一七)

は舞鶴の長だったようです。その後のドサクサの時代に、家族と離れた高級職員の人達が、大阪附近の寮生活をおられたことがありますが、その中で吾郷さんは、毎朝早く起きて掃き清めて、心静かにお茶をたて、それから色紙に俳句を書いたり謡をうたったりして、悠然と出勤されたそうです。趣味の人吾郷さんの風格躍如たる一面でしょう。

そのうちに三菱商事は、マッカーサーにコナゴナに分割されて、無数の小会社にされてしまったのですが、吾郷さんは電機の仕事をしていたので、三菱電機に移られました。そして仙台営業所長その他の営業畑を歴任された後、豊富な教養を買われて弘報の仕事に就かれた。今度の宣伝部の基礎を固められました。最後は日本電機工業会に出向され、技術部長として永い間名声を博されましたが、再び三菱電機に戻られた後引退されました。

吾郷さんは鳥根県出身で五高経由京大電気へ。ご自慢の鳥根美人の奥さんとの間に三児をもうけられ、長男は中部日本放送の部長、次男は三菱電機の課長、奥さんに似た美しいお嬢さんも嫁いでおられ、夫々一家をなして安定しておられます。お宅は荻窪の閑静なお屋敷町に敷地百五十坪、建坪六十坪の豪邸。平和な家庭環境の中に安穩に晩年を送られたご幸福がうかがわれます。

お葬式の日、吾郷さんがよく手入れをされたと思われる君子蘭が幾鉢も、赤い花を一杯つけてました。それを奥様が心をこめて切り取って、お棺の中に納められました。吾郷さんのお写真が微笑んで眺めておられる広い庭には、マーガレットの匂い花が満開でした。

### ソ連、東ヨーロッパの旅

広島大学工学部  
電気工字教室  
昭和38年卒

水 上 孝 一

シベリア經由、船の旅——  
船出の哀愁とロマンは、これが人生だと思わせるほど感動的なものである。特に往年のジェン、フオンテンを思わせる彼女がいつまでも、別れのテープをにぎりしめ、放心したように遠ざかる横浜棧橋をいつまでも、眺めているさまは、彼女にまつわる物語をきくに及んで、まさに事実が小説より奇なりの感を深くしたものであった。

ソ連船バイカル号の船旅は快適であった。もう津軽海峡に入ったかと思う頃、まだ千葉沖を北上するほどで、逆に、我々現代人の感覚が先走りをしてることを痛感した。

おそらく吾郷さんは毎日この庭で、  
蘭をつくる東籬のもと  
悠然としてマーガレットを見るという、充ち足りたご心境で余世を送られたことと存じます。  
吾郷さんのみ霊よ、こいねがはくは永遠のご平安をと、十四日会員一同、心からお祈り申し上げます。

船の旅は良いものである。国際的である。序道切符でロンドンへ向う日本青年あり、金がつづくまで異国における人の表情を研究にゆく演劇一年生あり、オストラリアから西ドイツの彼女の近くへ職を求めて旅するイギリス青年、日本興演を終えてルーマニアに帰るルーマニア合唱団、オーストリ、ハンガリーの観光団、その他、スイス、フィンランド、チェッコ、ロシア人等、私が話し合った人々の範囲の中でも、バラエティに富んでいた。  
訪づれる国の言葉を少しでも話せることは旅のたのしさを増すものである。ロシア語で話し掛けた挨拶がきっかけで親しくなった国

際捕鯨監視員のロシア人は、日本滞在におぼえた「瀬戸の花嫁」を聞かせてくれた。

裸の日光浴で親しくなったハンガリ人の女医には、日本みやげのソロバンの使い方を教えてやった。私のブタベスト滞在中には市内観光に彼女のオンボロ自動車で案内してやると親切な申し出を受けるほどであった。

旅のたのしさに欠けてならないものに、時間の貯えを充分に使うことであろう。金の貯へは充分ではないが、時間の貯へはあるときの方が、逆の場合よりもはるかに、変化に富んだ旅のたのしさを味わうことができると思う。その意味では学生時代にヨーロッパへの旅をすすめた。特にシベリア経由は旅の好きな人には良いルートであろう。

——ナホトカ、ハバロフスク——

異国の印象は税関から始まる。完璧はサービスを試みようとする、こうまでサービスが悪くなるものかと感心するほどであった。待たされること一時間半、持込外貨の検査は特に厳しい。ナホトカ港の写真撮影は禁止であるとは知らず撮った写真が、帰国後、望まれて政経学部の先生へ渡ったほどである。

しかし、私の印象は、禁止の理

由が理解できないほど平凡なものであった。

このルートで最初に接するロシアの庶民はナホトカ棧橋とシベリア鉄道始点のナホトカ駅である。社会体制の異なるもとの庶民の生活が、どのようなものであろうか。彼等の意識は、イデオロギーはどんなものであろうか。これらの疑問に明確に答えられるほどロシアの人々に接する機会は多くはなかった。

ナホトカ駅でのことであった。階級の無い社会にしては、逆に階級を意識せざるを得ないほど、みすばらしい人が、ブラットホーム上の私に話しかけて来た。聞き返しても皆目判らなかつたが、何かねだっていることがわかつた。この類であれば、ギリシヤ、イタリアに於いても、アメリカにおいてさえも経験したことである。

ハバロフスクまでの汽車の旅も興味あるものであった。行けども行けども荒涼たる不毛の大地を走った。中ソ国境ぞいに走るあたりは皆んな車窓から、景色を食い入るように眺めた。写真は撮るなど注意する一幕もあつた。ソ連国鉄の二等寝台列車は日本の二等寝台より乗り心地が良かった。ただキャビンの中にあるラジオから流される放送は日本語もあり、その内容はソ連のピートルとしか思え

なかつた。

シベリア第一の大会、ハバロフスクは幸い暖い秋の日和、モスクワ行のジェット機へ乗り換えの、わずかの時間であったが、都会をかい間見ることができた。仕立屋の前に人の行列があるのがみえた。ガイドの説明では冬のオーバの仕立注文に來ている人連であることがわかつた。衣服の値段は、日本に比し、質等を考えれば可成り割高のように思えた。モスクワのグム百貨店を散策したときの感想である。労働者の平均給与が日本のそれに比し半分以下であることを考えれば二倍、三倍にも感じられる値段であろうと思つた。

——モスクワは観光地——

赤い国の首都、モスクワにソ連国内からのお上りさん、世界各国からの旅行者がこんなに多く訪ねているとは夢にも思わなかつた。十五の共和国で成立つソ連は、人種の多様性と対等性がみられ、それらがどんなに小さい民族であれ、夜空を色どる星のように輝き、眺められていると思えたことは、大きな発見であつた。私自身も幾度か、道を尋ねられるほどで、キルギス共和国出身のソ連人であろうと見られたに違いない。アメリカ、日本等に比し排他性は

無いように見

受けた。モスクワの街並は、余りにもととのい過ぎている感じがした。売らんかな、効率第一主義の資本主義体制の都会に比べれば、ある意味では地味に映るであろう。

しかし人々の行き交う様、働きをみていると活気のある町であつたと思う。モスクワの地下鉄はよく利用した。大変便利である。一分間隔で運転されている電車はいつも人々でいっぱい。人間臭さが感じられて、東京や、ニューヨークの地下鉄のそれと同じ印象を受け、一種のなつかしさをこの人々に感じたほどであつた。

ポリシヨイ劇場へ当日券をあてにして出かけてみた。劇場の回りにはときならぬ多くの人連の人がぎで近づけなかつた。人々は皆んな不平を態度で示すしぐさをしていのように見受けた。私も群衆と一緒になにごとが起るのであろうかと期待して三〇分余りもたたずんでいた。オートバイに先導された黒塗りの乗用車が教台、玄関前に



モスクワ大学にて

止つた。クレムリン内部の人、それにハンガリーの首相級の人連が劇場内に入つていったと言ふことがわかつた。劇場を遠まきに警官隊で固め、いつ解除するのであろうか、群衆は、半ばあきらめ顔で、またかの一種の「なれ」であろうか、地下鉄の方へ去り始めた。昨日もクレムリンに通じる大通りが完全に交通遮断され、そのあおりを受けて、長い東の行列が他の通りに生じている様をみていたので、ポリシヨイ劇場に近づけない理由も、なるほどとうなづけた。

——バルト三国——

モスクワを訪問して、ポリシヨイバレーを見のがしたのは残念であつた。

ヨーロッパの歴史は宗教に始まり、国のとり合い戦争に終わったといえるであろう。

ヘルシンキからバルト海を船で横断、イストニア共和国の首都、タリンに入った。戦後ソ連領になったとはいえ、別の国へ来た印象を受けた。人々の顔立ちも異なるようであった。話されている言葉もイストニア語、それにロシア語である。同じくバルト三国の一つ、ラトビア共和国のリガ首都に汽車で入った。国際シンポジウムのことは別の機会にゆづるとして、町の印象を書いてみよう。これも、二つの公用語が通用、すべてのサインがラトビア語とロシア語で示されていた。ひどく禁欲的で質朴に見えたモスクワの人々に比し、非常にはなやかに感じられた。親しく語り合った T. J. とい

からは、今日の大学生の生活の様子をきくことが出来た。奨学金の額が成績によって決まること、就職は完全就職で、失業は全くないそうであるが、しかしそれには個人の自由、職業選択の自由が制限されていることは注意しなければならぬ。このことは法律によって強制されており、卒業後二年間は同じ職につき必要があるとのことであった。このことについてはルーマニアのブカレスト大学の教官も同じことをいっている

た。

○<sup>○</sup>は美人、同じ町に両親が居るが、下宿生活をしながら独立、専攻が英文学であることから通訳や、観光客のガイドのアルバイトをするのことであった。何故、親と住まないのかと尋ねてみた。答は、もう充分大人になったから独立するのだといっていた。このような早くからの独立性の涵養は、欧米の諸国に共通した社会生活の基盤を作っているようである。

ラトビア共和国は長いスエーデンの統治時代があり、リガ市の古い街並には、その当時の影響が多く残っている。新市街地区には多くのアパート群が立ち並び、店のウインドウも、売らんかなの積極性と明るさがただよっているようであった。

ソ連の衛星諸国からの出かせぎ労働者が可成り来ているようであった。リガ市にも見られた。私が見たまま出会った人はブルガリア人で、熱心に米ドルとソ連のルーブルを交換してほしいとのことであったが、その必要は全くないのである。あらかじめ、旅程に関する費用を取られているために、ルーブルは必要とせず、かつ、外貨専門店へ行けば三〇%の割引でソ連製品が買える仕組みになっているからである。

——レングラード、ボルゴグラード、キエフ——

昔の首都、レングラードの町並の美しさはまた格別である。イタリヤから建築家をまねいて作った町々は、ヨーロッパの古い街並にみられる一種の郷愁を感じさせられるものではない。革命前の下層民からの摂取のものすごさを認識せずにはおれないほどの町の作り、宮殿の造作であった。念願かなって、ソ連で最も古いバレエ劇場にて、バレエの一夜をたのしむことができた。一異国人からみれば、こんなに手軽に観劇をたのしむ機会があり、しかも最高のものがみられるときいているから、社会主義社会の良さをみせつけられた心地がした。

ボルゴグラード、元のスターリングラード市へは、当地の市長に逢いに行った。広島市の姉妹都市である。山田広島市長からのメッセージと、私の町の小学校からの児童絵を手渡した。町の建設が進行中であり、都市計画がよく行われている印象を受けた。

町の中心にある駅では多くのジプシーをみかけたが、人々の生活は活気のあるものであり、特に婦人労働者が多い。市電の運転手はほとんど女性であった。キエフの町は緑濃き、美しい街であった。ウクライナの首都であ

る。ここもウクライナ語とロシア語の二つが通用。ウクライナ美人が多いところであった。西ヨーロッパの影響を大きく受けている印象であった。観光客もアメリカ、ドイツ、フランス等、西側からの人達が多く来ていた。ロシア料理は量も多く、大変おいしいが、サービスの悪いことは、効率第一の我々からみれば理解しがたいものである。すでに二十日間もソ連領に居ると、食事時間も余り気にならないようになったし、食事の合間にも異国のの人々と話し合うたのしみもふえてきた。

——東欧、ルーマニア——

キエフからはモスクワ発ソフィア行(ブルガリア)の特急列車にのり、ウクライナ地方の大平原をぬけて、ルーマニアの首都、ブカレストに到着した。車中では、ブルガリア人の二家族と一緒にになり、ウオトカ、コニヤックで飲めや歌えやの大ききわぎ、私も、こわられて、日本の民謡を、はづかしながら披露した。

彼等は英語は話さないが、ロシア語は第一外国語であるため流暢に話していた。

ブカレストはつい先ほど、世界人口会議が開催された都、ソ連には可成り批判的な態度を取っている社会主義の国である。市内の案内をしてくれたブカレ

スト大学の先生は、あの建物は、あの記念像は、ソ連が作ったもので、ルーマニアの建物でないかと強調していたのが印象的であった。公園の多い美しい町である。ソ連の都市に比べ随分異なる町のたたずまいであった。西ヨーロッパの小都市と全く変らない、ごみごみして、人間臭さが強く、若い女性の胸元も一段と、大きく、はなやかに感じられるほどであった。驚いたといえ、バイク号船上で一緒にあった日本の若者と、ブカレストの駅で、ばったり出合ったことである。彼等は、ルーマニア合唱団の女性をいつも話し合っていた二人である。とうとう当地に乗り込んで来たらしい。

——ブルガリアの結婚式——

過去ただ一回の論文の交換だけで、初めてお面にかつたベシエフ夫妻が早朝のソフィア駅に迎えに来てくれた。今日は日曜日それに、夫妻が結婚式に招待されているとのこと、私も一緒に行こうということになった。全くの飛入りである。首都、ソフィアの中心の大きな教会で、式典は行われた。

私にとっては初めての異国での結婚式、みるものきくもの全てめづらしいものであった。参列者の新カップルへの握手と祝福が始ま



戸外で踊り始めたブルガリアの結婚式

である。思い出深い機会を与えてくれた彼に、今度、日本に来る機会があったら、是非、日本の村タイプの結婚式をみせてやりたいと思った。人情も繊細であり、町街もローマ時代の遺跡がみられるほど古く、落ち着いた町であった。

——ギリシャ、

ユーゴスラビア——

アクロポリスの丘を見物するのが目的でアテネにやって来た。トルコとのキプロス島をめぐるの關係か、やたらと軍人がめだつ所であった。若い青年が軍服姿でたむろしている様は、絶対社会からぬ

けて、資本主義の国に入った私には非常に異様にさえ感じられた。国とり合戦は人類の産物が、永久に地球上から消えそうにない印象を強くうけた。

った。一言、ブルガリア語を教えてもらって祝福に代えた。さて次は大変であった。全員、郊外の森のはづれの公園のレストハウスで祝賀会であった。私達もタクシーにてかけつけた。すでに生バンド演奏が始まり、素朴な贈物のやりとりが始まっていた。

二千五百年前に、作ったギリシヤ神殿のアクロポリスかいわいは多くの観光客でひしめき、またそれを目当にしか生活できない人々を多くみた。社会主義体制諸国の町並を一人で散策する感じは、なにかしら安心感を、しかし、アテネの町では、こちらの方が警戒する

は陽気にダンス、飲んで食べて踊りまくるのである。とうとうレストハウスの外へ全員出て、踊り始めた。カップルを交じえてのフォークダンスが始まったのである。これが村タイプの典型的な当地の結婚式であったの

ならなかった。町のはなやかさから受ける心の安らぎとは全く逆の

印象であった。これは、住んでいる人々からの印象にもとづくものであろうと思った。

ともあれ、あの遺跡、建物、石造りを、国立博物館を見物しての印象は、人類の偉大さをみせつけられた思いであった。

ユーゴスラビアの首都のベオグラード市は、一瞬、アメリカの都市の一つをみているのではないかと錯覚するほどであった。資本主義社会よりの進み方をしている国だけあって町並み、人々の服装もはなやかであった。城の跡を散策し、ドナウの雄大な流れを眺めたこと、美しい街木の公園も忘れないものであった。

——ハンガリー、チェッコ、ポーランド——  
急行でブタベストに入った。七年ぶりに逢うZsigmond氏家族に暖い観迎をうけ、雨の町、ブタベストを見物した。国立研究所、大学訪問の他に、ハンガリー動乱の場所であったところもみた。引きつり倒された像はなく、台座のみが残る

広場で彼氏が当時の暴動の様子を熱っぽく私に説明してくれ、いかにも成功しなかったことを残念がるように話すのが印象的であった。ブタベストは女性が好きになる町である。ロマンの町である。ド

ナウ河が市内を貫流し、一段と美しい景観を形成している。ブタ地区の落ち着いた町並、丘に赤い屋根の住宅街、緑の多い町であった。ベスト地区はにぎやかな街並が広がっていた。高級商品がシュウインドを飾り、はなやかな通りが多くみられた。

住宅難は特にひどく、結婚する人達を困らせているとのことであった。五年程度は待たされることであった。さらに人口が全く増加せず、政府は生めよ増せよの政策を打ち出しているとのことであった。結婚後五年以内二人の子供を作れば、多額の補助は毎日いただけるとのこと。

社会主義国で土地や家の私有が認められるのかどうか、多くの人々に尋ねてみた。その結果は、アパート、家については私有が認められているとのことであった。それでも相当に高く、ブカレストの友人は、彼の給与を毎月全額五年間支払えば買えると話していた。

ブタベストのZsigmond氏、夫妻も、子供一人、夫妻共に大学で働いているが、月々の家賃に妻の給与の三分の一を取られるとなげいていた。土地の私有については都市の効外に住宅をかまえるとき、長年月と複雑な手続をへて、私有が可能であるとの返事をブラハの研究所職員から聞くことができた。彼は

実際に、現にそのようにして郊外に土地つき一個建の住宅を持って

いるとのことであった。

チェッコスロバアのブラハの町も、ヨーロッパの歴史の生写しの感じがするほど、様々な様式の建築がみられ、せまい石だたみの道、城、尖頭の教会塔等が、町の中に集中し半日もあれば充分歩いて見物できるほどであった。

ポーランドの首都、ワルシャワは大戦で完全に破壊された街であるが、広島と同じ全く新しい都市が生れた反面、一部、大戦前の古い街を再現し、昔通りの街並を作った一角があった。ここは、城壁の中の町、石だたみのせまい道、古いマーケット広場、小さい店と

レストランが、それらの再現された昔の町に集まっていた、勿論、その街並には自動車は通行不可、歩行者天国の興味ある所であった。

——トリエステ、ウイン、ヘルシンキ——  
招待されて、イタリアの風光明媚、地中海のアドリア海に面するトリエステに滞在した。研究所での講義は大変な重役であったが、世界各国からの研究者に逢えて、話し合った。カトマンズからの物理学者も居た。韓国からアメリカに渡り、今、この研究所で研究

している

しているが、母国には帰ることができないという人もいた。

ユーゴスラビアと国境を接するこの街は、完全にユーゴの商業支配のもとで活動しているような平凡な町である。町の中にはローマ時代の劇場跡もあるほどであったが、観光地ではないので、ペンペン草がおしげるほど荒れていて。

研究所は郊外にあり、すぐ前が、地中海、公園、ミラマレ城があり、研究者には申し分のない環境であった。

ウインには六年ぶりに立寄った。当時と全く変わらない落ち着いた街並は、完成された芸術品をながめるほどの印象であった。

空路ヘルシンキへとんだ。この旅で二回目の訪問であった。私の電報が私より後にどくほどの北

国であった。ともあれ再会をよるこんで、雨のヘルシンキの町を自動車で起り廻った。ハトバの屋外市場、洗練された大通り、大教会、ヘルシンキ大学、この街並と人々からの印象は、資本主義社会のはなやかさと、社会主義社会の安らぎとを合せ持っているような感じがした。

北の国、フィランドの自然は気が遠くなるような美しさがあつた。ヘルシンキの街並をぬければ、そこは白樺林と湖と田園がおりなす一枚の絵を眺める思いであった。

車窓から放心したように見えた私に、Aliaは、「あの白樺林は敵しい永い冬の日を待ち望んでいるようなね」と、うまい表現をしてくれるのであつた。いつの日か、雪におおわれた、あの森を散策したい衝動をおぼえたほどであった。

自然の敵しさがかもしだす美しさは、そこに住む人々の心と容姿を魅力あるものにしていて感じた。北欧美人のAlia



船の船先で買物——ヘルシンキの波止場市場

（ヘルシンキ

大学生)には、東洋的な仕草と雰囲気があり旅人を満足させずにはおかなかった。

北欧の夜は早い。今夜は招待されて、アイラのいとこの家で、本場のサウナ風呂に入ることになつた。裸と裸のつき合いは良いものだ。全くわけへだてがない。お互いに背を流し合い、汗を出しながら、サウナの招待を受けた。これがフィランドの人達の最大のもてなしであつたのである。家族や隣人の大歓迎に答えて、ブラハで買った酒をふるまつた。

北欧の夜はながい。みぞれに変わった夜半、カローラは再び、夜のとぼりの白樺林をぬけて、ヘルシンキの町を西へ、アイラの宿舎へ向つて走つた。この夜の情景は、異国でのハイライトであるだけに、この人達の温い情感がまだに、つたわつてくる思いがするほど思い出深いものであつた。

外国旅行をしていると、非常に出発、別れの時が早くくるものである。別れも人生の哀愁であり、ロマンである。

雨のヘルシンキに多くの思い出を残して一路モスクワへ向つた。革命記念日のセスクワは、みぞれまじりの雪の日、パレードもすでに、締切つて入れず店も全て閉じて、寒々としたモスクワの最後の日を過した。(一九七五・二・一)

（ヘルシンキ

### 中部支部交歓会の記

五月十七日(土)と、十八日(日)の二日間、場所は例によつて伊勢五ヶ所湾内の七日島でした。昨年は生憎の不都合で参加できず、残念がつていられた人が幾人かあると聞いて今年も同じ場所を選んだのでした。果せるかな、新しい顔ぶれが多く、有意義な楽しい交歓会でした。まづ参加者を列記すると次の通りです。

- 一、大学並びに本部より
- 松田長三郎名誉教授(大6)、上之園親佐教授(昭18)、山本茂雄(本部幹事)(昭6)
- 一、会員として
- 本多静雄(大13)、竹安保(大14)、田中卓次(大15)、吉村敏恭(大15)、古田久一(昭6)、長田晋吾(昭7)、富満通哉(昭7)、秋田清四郎(昭16)、末田和(昭19)、伊藤定昌(昭20)、大須賀真一(昭21)、外山敏夫(昭22)、吉川哲夫(昭22)、西尾又一(昭23)、石川進(昭26)
- 遠藤茂(昭27)、前原恒之(昭28)、横川京次(昭28)、北村佑二(昭29)、野坂泰彦(昭30)、坂入武彦(昭33)、山下耕市(昭35)、疋田正(昭38)、安藤恒春(昭40)、林靖人(昭42)、清水紀男(昭48)、田中肇(講大9)
- 石川鉦太郎(講昭2)

一、同伴者は大人十二名小人二名でした。

今年は菜種梅雨が長びいて、五月というのにうつつとうしい日ばかり続いていましたが、当日の二日間はずっと変つての好天つづきに恵まれました。そこでまず、真珠筏が美しく浮ぶ風光明媚の五ヶ所湾をご想像下さい。その湾内にゆつたりとした姿を見せる広さ約十

万坪の緑の島、それが七日島です。島の中腹の谷間に谷の家、やや上寄りで展望のすばらしいところに山の家があります。いづれも疎野な萱葺きの大屋根で五月晴に映える新緑によく調和してました。では楽しかった交歓会の模様を左記に寸描することにいたします。

一、渡し舟で小さな棧橋につくと水際の小径と少し登つて下りたところに本多支部長のご厚意によるお茶席が設けられていました。潮のかおりに包まれてのお茶席も珍らしく、その風情はまた格別でした。

一、午後二時から谷の家で囲碁同好会の囲碁会が開催されてました。静寂そのものの谷の家は囲碁には格好の場所です、対局するものも観戦するものも七日島ならではの落ち付いた楽しさを満喫したようでした。

一、午後六時から山の家で総会が

開されました。年おいてますますご元氣な松田先生のご挨拶には一同感激しました。引きつづいて上之園先生からは最近の大学の状況について、また山本本幹事から本部の近況について詳しいご報告がありました。このあと浜料理をバクツキながら自己紹介をかねての団欒が過ぎました。

一、午後八時より中部支部長本多静雄氏の興味深い講演が始まりました。造詣深い狛犬についてのお話です。で感銘深い体験談や漫談めいた故事を織りまぜての解説で時のたつのも忘れるほどでした。ごく最近奥様と秘書を伴って狛犬の破片探索に八丈島へ出かけられた壮挙など特に感激一入でした。いろいろの質問も出て話は尽きませんでした。が午後十時半頃楽しかった会合を閉じ、それぞれ割り当てられた建家に分宿しました。

一、翌十八日は一点の雲もなき五月晴の朝でした。用意されたおにぎりの朝食を持って早々と釣り舟に乗りこむものは九名でした。その他は美しい風光を俯瞰しながら山の家で朝食を偕にしたあと、ゴルフコンペ参加者はいそいそと志摩カントリークラブへ向かいました。その他は自由行動となりました。

一、松田先生には一寸した鳥巡りを楽しんでいただいたあとと島を離れ、五十鈴川奥の深い谷沿いに北上する伊勢道路から宇治橋に出て内宮参拝をすまされ、近鉄特急で帰洛されました。以上中部支部交歓会の概要をご報告申し上げます。(古田記)

**昭十会卒業**

**四十周年同窓会**

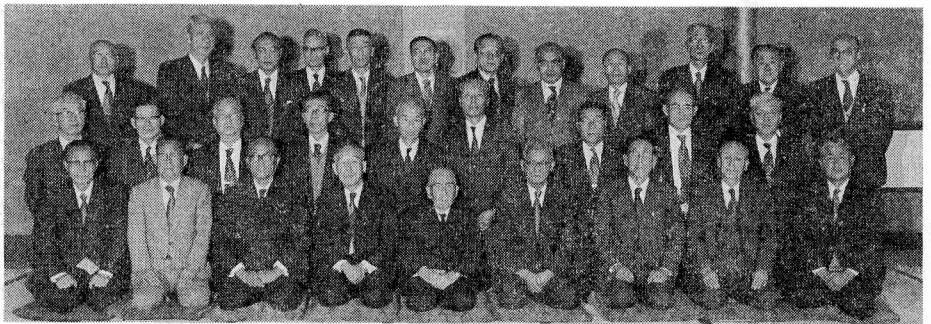
昭和十年卒業の昭十会々員二十七名は、昭和五十年三月十五日に、松田、阿部、羽村三先生をお迎えして、京都洛東の吉水庵で、卒業四十周年記念同窓会全国大会を開きました。

三先生からは、われわれに対するお励ましやなつかしいお話を伺い、一同は各自の環境や抱負などを順次発表し、またそれぞれ入りまじって懐旧談や現在の仕事について語り合うなど、楽しい一夜を過ごすことができました。

翌日は、ゴルフ同好者が京都カントリー西コースで、早期より東西対抗して一ラウンドを楽しみました。

会員出席者は次のとおりです。

- 天野、有馬、井上、植田、大塚、大曲、香山、神谷、北村、黒田治、黒田麟、小林、小寺、佐野、塩沢、清水、高田、高木、殿井、中沼、中堀、林、日高、藤本、森、山上、和久利(中沼記)



昭十会 京大電気工学科卒業  
40周年記念同窓会 S50・3  
15 於京都吉水庵

**電講同窓会**

**記念集合の予告**

会報昭和四十九年十二月一日号

にて御相談申し上げました電気工学講習所同窓の集りについては、予想以上多数の開催希望の申し出がありましたので、在京有志の者が去る二月十二日集り準備の打合せをいたし、次の方針で決行することになりました。

何れ皆様に改めて案内状を差し上げますが今から御計画を立てられ、よき思出を一つやすため多数諸兄の御出席をお待ち致します。

**記**

集合名目 電講同窓会記念集会  
開催日取 昭和五十年十月四〜五日(土、日)

場所 京都市円山知恩院北入楠荘

会費 一万円位(宿泊料を含む)御家族同伴歓迎

実行委員 洛友会講習所関係の幹事並に評議員其他

連絡先 〒607 京都市山科局私書箱第五号 立石亭三

**昭和五十年年度洛友会**

**関西支部総会報告**

去る六月一日京都祇園ホテルに於いて、昭和五十年年度洛友会関西支部総会が開催された。

総会は、大谷、近藤および池上先生ら五十名の出席者を得、正午から開かれた。まず、昭和四十九

年度事業報告および会計報告が承認され、上西亮二支部長から挨拶のあと、伊藤俊夫新支部長が選出された。続いて新支部長の挨拶があり、昭和五十年年度の事業計画と予算が承認された。そのあと、池上先生から電気教室の近況報告がなされ、立食パーティにうつり、なごやかなうちに総会は14時閉会した。

なお、新役員は次のとおりである。

- 支部長 伊藤俊夫 昭和六年卒 関西電力(株)副社長
- 副支部長 阪本 勇 昭和九年卒 住友電気工業(株)会長 (留任)
- 同 大森武司 昭和二年卒 日新電機(株)社長
- 総務幹事 浜口俊一 昭和三年卒 関西電力(株)取締役
- 会計幹事 原 豊明 昭和三年卒 関西電力(株)企画部長

**昭和五十年年度 洛友会総会の記**

六月七日(土)午後四時より、東京の国際観光「八芳園」において洛友会総会及び東京支部総会が共催にて盛大に催された。

出席者約一四〇名で家族同伴者は約十六名の盛況であった。午後四時より先づ東京支部総会



が催され、昭和四十九年度行事報告、昭和四十九年度決算報告、昭和五十年年度予算案が万場一致で可決された。

尚 喜寿を迎えられた左記六先輩の長寿を祝い、象牙の夫婦筆を贈呈した。

榊原 吉三氏(大11)  
島居金次郎氏(大12)  
池田 経喜氏(大12)  
田村 修氏(大12)  
樋口竹太郎氏(大14)  
瀬川為三郎氏(大15)

又役員の改選にて、左記の方々が新役員に選任された。

支部長 中山健一(昭11年卒)  
副支部長 正木知巳(大12年卒)  
総務幹事 重本直三(昭27年卒)  
会記幹事 伊藤貞男(昭32年卒)

次いで午後四時半より田中哲朗教授司会の下に、大谷教授(副会長)が議長の下に就き、議事に従り、昭和四十九年度の会計報告及び昭和五十年年度の予算案を山本幹事が説明した。昨年に引き続き、会費の値上げに、ふみ切らざるを得ない状況を説明し、昭和五十年年度より、本部会費を年二三〇〇円(従来一七〇〇円)支部会費、据え置きを諮り、万場一致、承認可決された。会長、鳥養先生が自宅で御静養のため松田長三郎先生が名誉教授を代表され御挨拶をされた。先生は、満八十二才の

昭昭49年度収支決算

(昭和49年4月1日から昭和50年3月31日まで)

収入の部

科 目	決 算 額	予 算 額
会 費	3,788,700	4,250,000
◇(講習所)	393,600	425,000
預 金 利 子	361,714	300,000
広 告 掲 載 料	1,301,750	1,600,000
借 入 金	0	0
雑 収 入	9,500	0
収 入 計	5,855,264	6,575,000
前年度繰越金	3,735,226	3,735,226
合 計	9,590,490	10,310,226

昭和50年度収支予算

(昭和50年4月1日から昭和51年3月31日まで)

収入の部

科 目	予 算 額	前年度決算額
会 費	4,600,000	3,788,700
◇(講習所)	460,000	393,600
預 金 利 子	300,000	361,714
広 告 掲 載 料	1,300,000	1,301,750
借 入 金	0	0
雑 収 入	0	9,500
収 入 計	6,660,000	5,855,264
前年度繰越金	3,710,135	3,735,226
合 計	10,370,135	9,590,490

支出の部

科 目	決 算 額	予 算 額
名簿編集費	4,400	6,000
◇印刷費	2,935,800	3,330,000
◇発送費	561,019	700,000
会報編集費	0	5,000
◇印刷費	597,130	495,000
◇発送費	584,345	637,000
備品費	6,022	25,000
通信費	57,385	60,000
会合費	84,782	80,000
総会費	130,787	150,000
集金費	136,925	160,000
総掛費	342,000	350,000
旅費	289,760	300,000
懇話会補助	150,000	150,000
借入金返済	0	0
支 出 計	5,880,355	6,448,000
次年度繰越金	3,710,135	3,862,226
合 計	9,590,490	10,310,226

支出の部

科 目	予 算 額	前年度決算額
名簿編集費	10,000	4,400
◇印刷費	3,500,000	2,935,800
◇発送費	650,000	561,019
会報編集費	5,000	0
◇印刷費	400,000	597,130
◇発送費	500,000	584,345
備品費	25,000	6,022
通信費	100,000	57,385
会合費	100,000	84,782
総会費	150,000	130,787
集金費	160,000	136,925
総掛費	400,000	342,000
旅費	350,000	289,760
懇話会補助	150,000	150,000
借入金返済	0	0
支 出 計	6,500,000	5,880,355
次年度繰越金	3,870,135	3,710,135
合 計	10,370,135	9,590,490

預金および現金(昭和50年3月31日現在)

信託預金	3,373,155	普通預金	72,736
当座預金	241	郵便振替	56
現 金	263,947	合 計	3,710,135

御高齢であるが、御元気でその若々しさに驚かぬ者はない。続いて田中教授より教室の近況に就いて説明され午後五時より立食の懇親会に一同歓談に徒り午後七時閉会した。

訃報

大13卒	三谷 峰吉	49	11	26
大14卒	五郷 侃二	50	5	11
大14卒	金井 健吉	50	5	8
大14卒	河村 有平	50	5	17
昭16卒	高橋 碩男	49	10	17
昭4卒	白崎 文雄	50	5	19
講昭5卒	桂木 貞治	50	1	25
講大11卒	飯田軍治郎			
講大9卒	常石 猛	50	4	20
講大15卒	谷 甫	49	1	5

以上の方々が、ご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

暑中御見舞申し上げます。同窓諸兄におかせられては相変らず、ご清栄の御事と存じ上げます。本年度より、会報を年四回に縮減し第二回目、七月号をお手許にお届けいたします。編集子の不手際にて毎号遅れがちで申訳ありません。

本年の総会は本号に御報告申し上げました如く、本部会費の値上げと言ふ好ましからざる提案に、万場一致御賛同賜りましたことを、厚く御礼申し上げます。洛友会の実りある運営のために、財政的基盤を会費と賛助会員の広告に依存して居り特に、会員の大多数を占める、東京及び関西支部では、親睦事業を、上記の広告代に依存する所が大でありますので従来一部の反対意見もありますが常任役員会に於て審議の上、毎年名簿を発行することに致して居ります。又、会報に就きましては、本部が同窓諸兄の情報センターとしての機能を果たすため、各支部、各職域などの活動状況などを御投稿下さいます様御願ひ申し上げます。



電気評論

電話一本ですぐ本がお手元にとどきます

定価四〇〇円 送料二八円

七月号……七月十日発売

特集・発電所の温排水

- 温排水と海棲生物との関係……福井県水産試験場
- 温排水の拡散について……電力中央研究所
- 高浜発電所の有孔形放水口について……関西電力
- ハマチとその養殖……日本原子力発電
- アワビの飼育実験……東北電力
- 温排水を利用したのり種網生産試験……中部電力
- 温排水の融雪への利用……北海道電力

透過係数法による電力系統過渡現象計算……同志社大学

浜岡原子力発電所の特徴……中部電力

応用電気数字・数値解析法……京都大学

電気単位創始者列伝……東海大学

その他海外文献・解説

臨時増刊号 好評発売中

特集・五十年代の安全

- 電力設備に対する新しい保安体制
- 新時代のための電気安全のABC
- 五〇〇KV送電設備の点検と安全

液化天然ガスの特性と安全

株式会社 電気評論社

〒六〇六 京都市左京区田中大塚町四九  
電話京都(〇七五)七〇一一二五八二